

豪華ソリストとドイツ音楽の王道、そしてパーヴォ十八番のチャイコフスキー

パーヴォ・ヤルヴィ 指揮 チュリッヒ・トーンハレ管弦楽団が2023年10月以来、2年7か月ぶりに日本を訪れる。今回のソリストはピアノが反田恭平でベートーヴェンの「ピアノ協奏曲第3番」、ヴァイオリンがオランダの名手ジャーニス・ヤンセンでブラームスの「ヴァイオリン協奏曲」と、いずれもドイツ音楽の王道に挑む。オーケストラだけの曲目にはシューマン「歌劇《ゲノフェウファ》序曲」、ブルックナー「交響曲第4番《ロマンティック》」とドイツ＝オーストリア系の一方、パーヴォが得意とするスラヴ音楽からもチャイコフスキーの「交響曲第5番」が選ばれている。

首席指揮者兼音楽監督のパーヴォはトーンハレ管について「ドイツ語圏の中心地チュリッヒに本拠を置き、ウィーン・フィルやシュターツカペレ・ドレスデン、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管に近い存在です。ベートーヴェン以降、ドイツ・ロマン派の作曲家に強みを発揮してきました」と語る。1906～49年の長期にわたって君臨した第2代音楽監督 Folkmarl・アンドレーエはスイスにおけるブルック

ナー演奏のパイオニアだった。シューマンが青年ブラームスの才能を天下に知らしめたのに対し、ブラームスとブルックナーは音楽観の違いから疎遠な同時代人だったが、全員がベートーヴェンを尊敬し「超えよう」とした。チャイコフスキーはロシアをルーツとしながらしばしばスイスやイタリアを訪れ、西欧スタイルの音楽を規範と考えていた。パーヴォとトーンハレ管が日本で演奏する5人の作曲家は、深いところで一体の世界を共有しているのだ。

1895年に完成した本拠地、トーンハレ（ドイツ語で「音楽堂」の意味）は2021年の大規模な改修工事を経て、一段と素晴らしい音響を獲得したという。パーヴォは「ウィーン楽友協会（ムジークフェライン）ホール以上に温かく豊かな残響を誇り、音楽の滑らかさや色彩感を高めます。ホールと一体にはぐくまれたトーンハレ管弦楽団のサウンドは、とりわけロマン派音楽の再現には理想的です」と折り紙をつける。理想の音響の中で磨き抜かれた名門オーケストラのサウンドを、心ゆくまで楽しむ機会となりそうだ。

池田卓夫 音楽ジャーナリスト@いけたく本舗。



パーヴォ・ヤルヴィ (音楽監督)
Paavo Järvi (Music Director)

グラミー賞受賞歴を持つパーヴォ・ヤルヴィは、今日最も卓越した指揮者の一人として広く認められており、世界各地の一流オーケストラと密接なパートナーシップを築いている。2019年シーズンより、チュリッヒ・トーンハレ管弦楽団の音楽監督に就任。幅広いレパートリー、エネルギッシュな演奏で、多くのファンを魅了しており、同オーケストラとのレコーディングも精力的に行っている。祖国エストニアでは、エストニア・フェスティヴァル管弦楽団を立ち上げ、芸術的にも大きな成功を収め、2004年からはドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団の芸術監督を務めている。



ジャーニス・ヤンセン (ヴァイオリン)
Janine Jansen (Violin)

「世界のスター・ソリストの中で、彼女は最も鋭敏な聴き手であり、室内楽のパートナーとしても巧みで親密な存在だ。」ニュー・ヨーク・タイムズより ヴァイオリニストのジャーニス・ヤンセンは、世界で最も著名なオーケストラや指揮者と、長年に渡り関係を築いてきた。

2025/26年シーズンには、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の「アーティスト・イン・レジデンス」を務め、キリル・ペトレンコ、サー・サイモン・ラトル、トゥガン・ソビエフ各氏と共演。デッカ・クラシックの独占にて収録も実施している。2024年6月にリリースされた最新版は、クラウス・マクラ指揮オスロ・フィルハーモニー管弦楽団との共演で、シベリウスのヴァイオリン協奏曲とプロコフィエフのヴァイオリン協奏曲第1番を収録し、高い評価を得た。使用楽器は、ヨーロッパの後援者より貸与された1715年製のシムススキー・ローデ・ストラディヴァリウス。



反田恭平 (ピアノ)
Kyohei Sorita (Piano)

2021年、第18回シヨパン国際ピアノ・コンクールにて日本人では半世紀ぶり最高位となる第2位を受賞し、世界の注目を集めた。2016年のデビュー以降、幅広い聴衆を魅了し続けており、国内外のオーケストラとの共演回数はすでに300回以上に及ぶ。公演は各地売切が続き、最もチケットの取れないアーティストと称されている。

2021年には自身のオーケストラであるJapan National Orchestra (JNO) を株式会社化し、またファンと音楽家を繋ぐ音楽サロンSolistiadeを立ち上げた。現在は活動の拠点をウィーンへ移し、ヨーロッパ内はもちろん、カナダ、オーストラリア、アジアなど世界中で活躍の場を広げている。2025年には、ザルツブルグ音楽祭史上初となる弾き振りの出演を果たした。



チュリッヒ・トーンハレ管弦楽団
Tonhalle-Orchester Zürich

「モーツァルトからメシアンまで」クラシック音楽への情熱を胸に、1868年創設以来、長い歴史を歩んできた。2019年シーズンより音楽監督・を務めているパーヴォ・ヤルヴィとの共演は、毎回特別なエネルギーが生まれ、その卓越した演奏で国際的に高い評価を得ている。錚々たる客演指揮者や世界的に活躍するソリストとの共演は、オーケストラを大きく発展させ、未知の名作や新作の委嘱にも意欲的に取り組み、聴衆とともに音楽の世界を探索し続けている。現在、約20カ国から集まった100人ほどの団員が所属しており、年間で50以上のプログラムを100回以上の演奏会で披露。2022年にはパーヴォ・ヤルヴィとともにヨーロッパ文化賞を受賞するという栄誉にも輝いた。

Touring supported by Merbag

お申込み

ジャパン・アーツぴあ 0570-00-1212 www.japanarts.co.jp/

横浜みなとみらいホールチケットセンター 045-682-2000 minatimirai.pia.jp (5/17のみ)

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 suntory.jp/HALL/ (5/18,5/19のみ)

トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212 (5/21のみ)

チケットぴあ

イープラス

ローソンチケット

神奈川芸術協会

t.pia.jp [Fコード 310-255]

eplus.jp

l-tike.com [Lコード 31027]

045-453-5080 (5/17のみ)

kanagawa-geikyo.com

<2026年 その他の日本公演全国スケジュール>

★反田恭平出演

●5/22(金) 愛知県芸術劇場コンサートホール ★
[問] 東海テレビチケットセンター
052-951-9104

●5/23(土) ザ・シンフォニーホール ★
[問] ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333

<<特別割引チケット>>

●シニア、学生、各種割引につきましてはジャパン・アーツHPをご覧ください

●車椅子席は、一般発売日以降にジャパン・アーツぴあコールセンターへ問合せください。

Xでフォローする
[@japan_arts](https://x.com/japan_arts)

次のことをあらかじめご了承のうえ、チケットをお求めください

①やむを得ない事情により、出演者、曲目・曲順等が変更になる場合がございます。②公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮ください。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚チケットが必要です。⑥全席指定です。指定のお席でご鑑賞ください。⑦場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因となりますのでお断りいたします。⑨他のお客様の迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。